

# 熊本短大、水俣

## 病調査始める

熊本短大社会学科の水俣病の実態調査班の一行は、八日水俣市を訪れ、調査を開始した。

一行は内田守人同大教授、岡本民夫講師をはじめ学生ら十人。被病らしいの閩病生活、胎児性水俣病の実態などを調べて、公害に対する国家的な対策をもとめる基礎資料にしようというのが目的。

被病者の生活、環境、患者および家族の精神的、経済的負担などについて、市立病院の水俣病棟に

入院している二十二人の患者をはじめ、家族に個別に面接し、聞き取り調査を十日まで行なうことに

なっている。

この調査の結果は九月中旬ごろまでにまとめ、十一月に京都の華

頂短大で開かれる日本社会福祉学会の席上、発表されることになっている。